



カバー・口絵デザイン 岡田武彦  
編集協力 インターノーツ  
口絵撮影 佐藤哲郎

---

●本文中の団体・個人の名称等については、原稿通りの表記とし、とくに統一していません。

---

## 世界を支配する秘密結社・謎と真実

---

別冊歴史読本 49 第28巻第18号  
定価 本体1800円＋税  
2003年5月13日印刷 2003年6月13日発行

---

発行人／菅 英志  
編集担当／酒井直行  
発行所／株式会社 新人物往来社  
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-18-3 錦三ビル  
☎03-3292-3971（編集） FAX03-3292-3972（編集）  
☎03-3292-3931（営業） FAX03-3292-3932（営業）

印刷所／図書印刷株式会社

©新人物往来社 2003

---

別冊歴史読本

# 世界を支配する

# 秘密結社

謎と真相

Mystery and Truth of The Secret Society

フリーメイソン  
日本グランド・ロッジが  
その全貌を公開!!  
日本グランド・マスター  
就任式に潜入!



日名子暁 歌舞伎町・中国マフィアの暗闘  
朝倉喬司 近代が生み出したヤクザという結社  
宮崎 学 「幫」アジアの一大共同体のハワーと可能性  
岡崎由美 武俠小説の世界観と秘密結社  
吉村正和 啓蒙主義的フリーメイソンから帝国主義的フリーメイソンへ  
海野 弘 すべてはつながっている 秘密の世界ゲーム  
中島 渉 暗黒のネットワーク カ・ニ・テロとイラク戦争の裏側  
秋山真人 才カルティズムから見た「秘密結社」論

フリーメイソン

アメリカ独立、フランス革命  
・ロシア革命の演出者

民衆の中国史 幫

ヤクザ、サンカ

日本社会を彩る  
陰のネットワーク

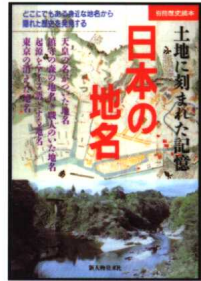
新人物往来社

000  
E38  
995

## 別冊歴史読本

### 日本の地名

土地に刻まれた記憶



定価：本体1800円＋税

### 歴史読本558冊総目録

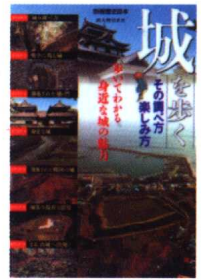
創業50周年記念出版物



定価：本体2000円＋税

### 城を歩く

その調べ方・楽しみ方



定価：本体2200円＋税

■新人物往来社■

# 世界を支配する

# 秘密結社

謎と真相

000  
738  
99  
NB



AUX REPRESENTANS DU PEUPLE FRANCOIS



yaf79/11870

# 世界を支配する 秘密結社

謎と真相



## ● 目次

### 第一章 フリーメイソンと欧米の秘密結社

歴史を動かしてきた陰のネットワーク

人はなぜ秘密結社をつくるのか? 秘密結社と秘義共同体 吉村正和 12

フリーメイソンリーと政治的革命 湯浅慎一 30

啓蒙主義的フリーメイソンから帝国主義的フリーメイソンへ 吉村正和 38

【座談会】秘密結社・陰謀・フリーメイソンの世界史 海野弘 吉村正和 中島渉 52

すべてはつながっている 秘密の世界ゲーム 海野弘 70

◎インタビュー◎オカルティズムから見た「秘密結社」論 秋山真人 86

現代日本の陰謀説 宇野正美と太田龍を巡って 生江久 95

太田龍の珠玉なユダヤ宇宙人陰謀史観に基づく「秘密結社」論を知らなければ、あなたも日本国も亡びる! 洩矢汎 104

「フリーメイソン」は日本の戦後史を牛耳ったのか!? その幻想と実像 日高恒太郎 118

フリーメイソン日本ブランド・ロジックはこうなっている! 取材・文／編集部 129

暗黒のネットワーク 九・一一テロとイラク戦争の裏側 中島渉 165

オピュス・デイ ラテン国家における権力者たちのネットワーク 安田雅企 174

マフィア シチリア島から始まった犯罪結社の血の掟 安田雅企 179

## 第一章 中国(幫)・イスラム・インド……文明あるところに秘密結社がある

- 武俠小説の世界観と秘密結社……………岡崎由美……………190
- ◎インタビュー◎「幫」アジアの一大共同体のハワーと可能性……………宮崎学……………198
- 魔都：上海の秘密結社——巨大な影法師を見た日本人たち……………空知宣雄……………208
- イスラムとインドの秘密結社……………保坂俊司……………230

## 第二章 ヤクザ・サンカ……日本にもある秘密のサインとシンボルによる紐帯

- 歌舞伎町・中国マフィアの暗躍……………日名子暁……………242
- 近代が生み出したヤクザという結社……………朝倉喬司……………254
- 山本五十六フリーメーソン説の真偽を追う！……………岡田光興……………264
- 「オウム真理教」事件「未解決部分」に残された民族派右翼vsフリーメーソンの影……………日高恒太郎……………272
- サンカを秘密結社として描いた三角寛……………今井照容……………283
- 近代日本の秘密結社活動と幻の「シノガラ」……………岡田光興……………292

### 【辞典】

- フリーメーソン人物辞典……………赤間剛……………145
- 中国秘密結社辞典……………若尾史……………219
- 世界秘密結社辞典……………綾部恒雄……………302

### 【コラム】

- フリーメーソン概略……………24
- モーツァルトとフリーメーソン……………143
- 法輪功 中国政府を畏怖させる気功集団
- 〈中国・秘密結社の系譜を受け継ぐ巨大エネルギー〉……………207

フリーメイソン  
日本グランランド・ロッジが  
その全貌を公開!!



日本グランランド・ロッジ  
外観

日本におけるフリーメイソンの  
総本山。手前にメイソンのエ  
ンブレムが見える。



玄関ホール

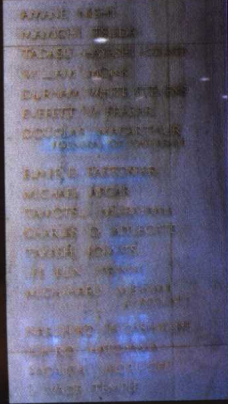


美しいレリーフと  
ステンドグラスが  
印象的。青いステ  
ンドグラスはブル  
ー・ロッジ、赤いス  
テンドグラスはス  
コティッシュライ  
トおよびその他のメ  
イソン関係団体の  
象徴を描いている。  
壁に刻まれた名譽  
会員の中には、  
故・鳩山一郎元首  
相や、故・東久邇  
稔彦元首相などの  
名前も見える。



スコティッシュ・ライト・ホール

東京地区のスコティッシュ・ライトおよび  
その他のメイソンの関係団体が使用する  
ホール。





## ブルー・ロッジ・ホール

入会式やグランド・マスターの就任式など、さまざまな儀礼が行われるホール。中世の石工職人組合をその起源とするメーソンリーだけに、正面に位置するグランド・マスターの席の前には、切り出されたばかりの石と、きれいに整形された石が左右に置かれている。



## 絵画

「アメリカ国会議事堂の基石を置くジョージ・ワシントン」。独立宣言の採択以来、多くのアメリカ大統領を輩出してきたメーソンリーだけに、彼らに関連した絵画なども多い。

## 役員会議室

日本グランド・ロッジは、水交社(旧海軍将校・士官の親睦団体)の跡地に建てられたことから、その応接室を忠実に再現。役員会議室として利用している。

## グランド・マスター就任式

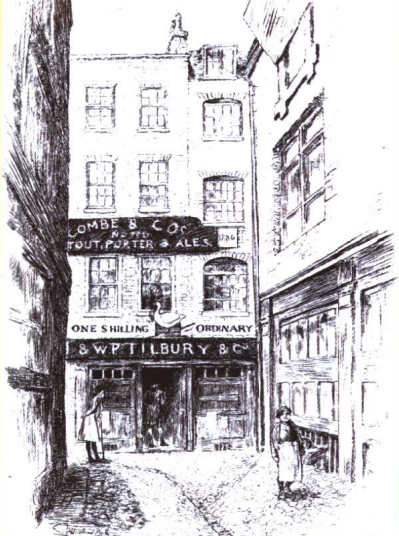
二〇〇三年三月十五日、ブルー・ロッジ・ホールにおいて執り行われた。



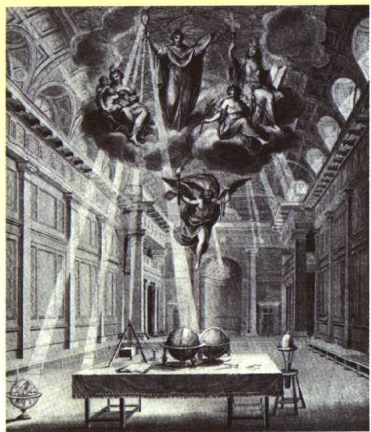
# The Gallery of the Freemasonry's Item

## フリーメイソンギヤラリー

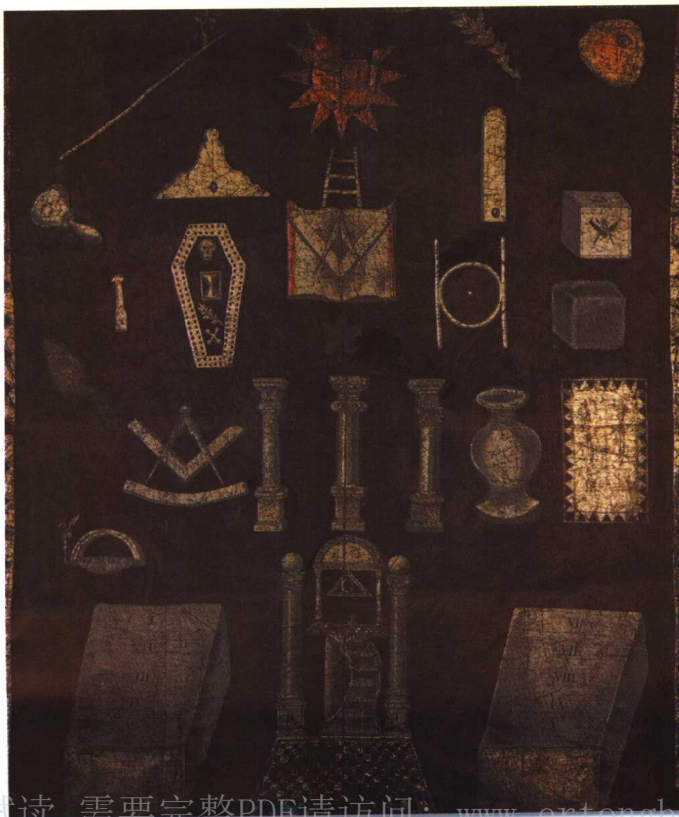
一七一七年六月、  
ロンドンの居酒屋  
グース・アンド・グリドアイアン  
(想像図)で、  
世界で初めての  
グランド・ロッジが結成された。



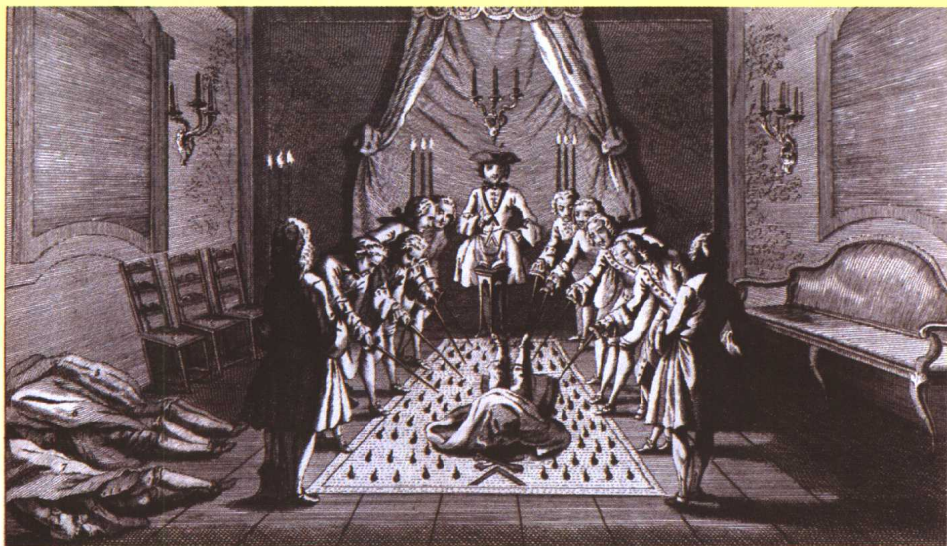
グランド・フレンチメイソンの  
入場券(十八世紀)。



一七八四年版  
「フリーメイソン憲章」の口絵。



初期フリーメイソンが使った  
床の敷物(一八〇四年ころ)。  
メイソンの主要な象徴が描かれている。



版画「マスター・メイソンを  
参入させるための  
フリーメイソンの集会」(一七五〇年ごろ)。  
トレーシング・ボードの中央に描かれた  
棺の上に志願者を寝かせ、  
剣先を突きつける。これにより  
志願者は象徴的な「死」を経験する。

第一位階のトレーシング・ボード(一八一九年)。  
一般的な西洋形而上学の  
構造を表現している。

古代派グラント・ロッジの紋章  
(十八世紀中葉)。  
人間、鷲、牡牛、獅子が描かれている。





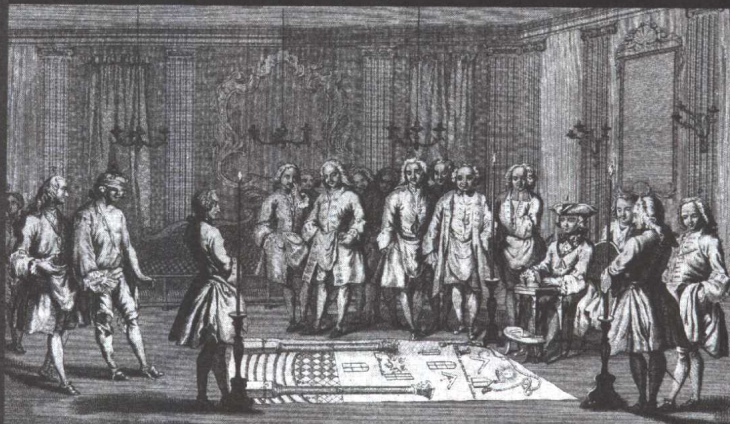
フリーメイソンの証としてのエプロン。  
石工職人組合をその起源とするメイソンは、  
石工の衣装であるエプロンを着用する。



絵画「ウィーンのロッジにおける集会」（一七八〇年代）  
右端に座っている人物がモーツァルトと言われている。  
彼の作品であるオペラ「魔笛」は、  
メイソンの理念がうたわれたものとも言われる。



第一章  
フリーメイソンと欧米の秘密結社



……歴史を動かしてきた陰のネットワーク

# 人はなぜ秘密結社をつくるのか？

## 秘密結社と秘義共同体

吉村正和 (名古屋大学教授)

### 入社の秘密結社と 政治的秘密結社

人はなぜ秘密結社をつくるのか、という問いに答えるには、まず秘密結社とは何か、という問いに答えなくてはならない。しかし、〈秘密〉〈結社〉〈秘密結社〉と想いを巡らせていても、これはという解答はすぐには出てこないだろう。まず、これまでこの問いに対してどのような回答が提出されてきたのかを整理

しておく必要がある。先行研究としては、代表的なものとして、セルジュ・ユタン、澁澤龍彦、綾部恒雄、種村季弘の各氏による研究がある。

セルジュ・ユタンの『秘密結社』は秘密結社に関する古典的な翻訳である。訳者による「まえがき」によると、初版は一九五六年に出ているということ、その後の秘密結社論はすべてここから出発していると言える。存在意義を現在でもなお失っていない名著である。

ユタンは、秘密結社を政治的秘密結社と入社の秘密結社に分類しているが、力点は明らかに入社の秘密結社に置かれている。

政治的秘密結社は、「その活動を、あるいは少なくともその成員の氏名を隠蔽することに努める団体で、その団体活動は公的機関の埒外にあるものであるか、あるいはもつとも多く見られる例であるが、現存の権力に対して反抗するものである」と定義している。

目的が達成されたときには存在理由を失うために、永続する結社ではないという特徴がある。政治的秘密結社の例としては、イルミナティ、カルボナリ党、アイルランドの秘密結社、マフィア、クー・クラックス・クランなどが挙げられている。

入社の秘密結社は、迫害を受けている場合を除き、必ずしもその存在を隠そうとするわけではない。外部の者に秘密にされるのは、「その特有の儀式」と、会員だけが知る「記号や符牒」だけである。「これらの団体が単なる封鎖的団体と区別されるのは、それらが加入者に対して入社式を行ない、多少複雑な儀礼を有し、一種の祭式を行なう点である」。

ユタンは、入社式を「個人のうちにあるの低次と見られる状態から高次の状態への心理的移行を実現することを目的とした過程、すなわち世俗的な『門外者』から『奥義の伝授をうけた者』への変化を意味する」と定義している。志願者は、

「死の試練」を含む一連の試練を受けて、靈的に完成した状態へと上昇していく。

志願者は、長く骨の折れる階梯を上昇する、あるいは、苦しい遍歴を重ねた上で、神的な状態にまで高められるが、その過程は階層化されることが多く、秘密結社の階級的位階制は、その階梯あるいは遍歴の各段階を表わすものと考えられる。

ユタンが対象とする入社の秘密結社は、エジプト・ギリシア・ローマなどの古代密儀宗教、キリスト教、グノーシス主義、薔薇十字団、フリーメイソン、イスラムの秘密結社などである。

澁澤龍彦の『秘密結社の手帖』は、一九六六年に初版が出ており、それ以後も版元を代えて刊行され続けている。

「秘密はその団体に特有な入社式の儀式」にあり、「新会員は、この非公開の入社式で、旧会員から一種の試練を受ける。それは多くの場合、象徴的な手続きであるが、新会員は試練を受けて初めて

組織の一員たる資格を得る」として、秘密結社を構成する要素が儀式と試練にあると述べている。さらに、「会員相互が自分たちを門外者から識別するための記号、符牒」を持ち、「団体の起源、目的、沿革などの口伝による継承がある」とした上で、秘密結社の三要素として儀式・試練・符牒を挙げている。

随所に博学な著者独自の視点が編み込まれてはいるが、基本的にはユタンを踏まえた構成となっている。対象は、古代密儀宗教、グノーシス主義、薔薇十字団、フリーメイソン、政治的秘密結社、クー・クラックス・クラン、犯罪的結社、魔術的結社、アジアの秘密結社、イスラムの秘密結社など全般にわたっている。

綾部恒雄の『秘密の人類学』は、秘密結社を「血縁や地縁の原理によらない任意加入の、位階制に応じた秘儀を伴う目的集団」と定義している。ユタンの分類を継承していることは、「入社の（祭司的）秘密結社と政治的秘密結社」に分類

していること、「秘密結社の真髄はそれぞれの秘密結社が有する秘儀にあり、秘儀の中核をなすものは、新入者のイニシエーションである」としている点などに見ることが出来る。

秘密結社のイニシエーションについては、「非加入者と加入者の間に横たわる価値的な深い断層を明らかにし、こうした断絶を超えて加入するためには死を象徴するほどの試練に耐えなくてはならないことを新入者に悟らせることである。それに耐えて通過した者にのみ、それぞれの秘密結社が理想とする『聖なる世界』の哲学や目的や世界観が啓示される」と述べている。

対象としては、フリーメイソン、アイランドの秘密結社、アメリカの秘密結社などのほかに、ケニアのマウマウ団、未開社会の秘密結社などアフリカの秘密結社が含まれており、人類学的な観点から考察している点に特徴がある。

平凡社版『世界大百科事典』に収録さ

れている種村季弘の論文「秘密結社」も、著書ではないが、代表的な先行研究に加えるべきものである。「加入者以外の者に対して、その存在、組織、目的などを秘密にする結社、団体」と定義し、「政治的結社と入社式団体」の二種類があるとしている。

入社式団体は、「世俗的な一般社会の中に秘密による封鎖領域を形成して、聖なるものの顕現を体験するための入信者団体である」とし、外敵や中央権力との対抗から発生する政治的結社は、目的を達すると結社自身が消滅するために、長期にわたって存続することはないと述べている。

ドイツ文学者である著者の定義で見べき点は、近代の秘密結社が「個人や集団が現存の世界を不完全なものともみなし、今ここにはない第二の完全な世界を遠方から手引きするために結成される」と述べ、「完全知を探求する」組織として秘密結社を位置付けている点である。

対象は、グノーシス主義、薔薇十字団、フリーメイソンが中心である。

以上のように、日本における秘密結社研究は、多かれ少なかれセルジュ・ユタンの「秘密結社」から出発していることが理解される。さらに、ユタンも紹介しているG・ジンメルの『社会学』（一九〇八年）は、抄訳として、その第五章「秘密と秘密結社」が『秘密の社会学』という表題で翻訳されており、秘密結社における「秘密」の語義について定義する際によく参照される。

ユタンはさらに参考文献としてマンリー・ホルの『象徴哲学大系』を挙げているが、政治的・秘密結社を除くと、ユタンが入社的・秘密結社として挙げている団体は、『象徴哲学大系』の扱っている諸団体とはほぼ重なる。「秘密」の語義についてはさらに、秘密を持つことと自我の誕生とを結びつけ、その最初の表れを「肛門愛」の視点から論じているフロイトの説もよく利用される。

## 〈秘儀〉を通して〈秘義〉の 開示を約束する共同体

以上のような先行研究を踏まえて、改めて秘密結社とは何かを考えてみよう。ユタンの系列で秘密結社をとらえるのであれば、いま紹介した書物を読むことでほぼその全体像がつかめるはずである。ここでは、先行研究がとくに入社秘密結社として共通に含めている団体・組織をまず選び出し、その上でそうした団体・組織の共通項は何かを詰めていくことによって「秘密結社」の定義に迫ってみよう。

すべての先行研究が念頭に置いている代表的な秘密結社は、フリーメイソンと薔薇十字団である。それにイシス・オシリス密儀、ディオニュソス密儀、エレウス密儀などの古代密儀宗教、原始キリスト教、グノーシス派など、場合によっては魔術結社、錬金術などが加わるといふパターンが見られる。

このような団体・組織に共通して見られる点は何か、という視点から筆者なりに定義すると、秘密結社とは、「世界の根底には最奥の〈秘義〉が存在すると想定し、結社員には〈秘儀〉を通して最終的にその秘義を開示することを約束する団体」である。

まず、世界すなわち自然・社会・人間の根底には、通常では隠されたままの神秘的な〈秘義〉が存在するという発想が前提となる。〈秘義〉の内容については、神あるいは神的存在（ダイモン、プネウマなど）という場合が一般的であるが、近代という世俗化の時代においては「幸福」「喜び」「友愛」などの諸観念が主役となる。さらに、社会の視点からは理想都市、魔術の視点からは「宇宙靈魂（アニマ・ムンデイ）」、錬金術の場合には「賢者の石」あるいは「鍊金靈液（エリクシル）」などが想定される。

結社員には〈秘儀〉を通して最終的にその秘義が開示されるが、〈秘儀〉とは、

それぞれの秘密結社が究極のものと考えられる知識・英知の伝授式を指している。通常の場合には段階的に階層化されており、フリーメイソンの場合であれば、「徒弟」「職人」「親方」の三位階があり、志願者は徒弟から段階的に職人、親方というように上昇するにつれて高次の知識を加えていく。

十八世紀の黄金薔薇十字団では、「初位階」「テオレティクス」「プラクティクス」「フィロソフス」「小位階」「大位階」「アダプトゥス・エクセンプトゥス」「マガステル」「マグス」というように、九位階に分かれていた。古代密儀宗教のミトラス教の場合には、「大鳥」「花嫁」「兵士」「獅子」「ペルシア人」「太陽の使者」「父」というように七つの位階から構成されていた。

いずれの場合にも、志願者は段階をおって最終的な〈秘義〉に到達するのであり、不完全な状態から完成された状態へと上昇していく。錬金術の場合には、